週間展望・回顧（豪ドル、南ア・ランド）

September 13, 2024

ZAR、SARB の利下げはポジティブ材料

◆豪ドル、対円では日米金融政策を受けたドル円の動向に振らされる見込み
◆豪ドル、RBA の政策を非難した財務相に同調する声も
◆ZAR、SARB の利下げはポジティブな材料に

予想レンジ
豪ドル円　92.00-97.00 円
南ア・ランド円　7.70-8.20 円

9 月 16 日週の展望

豪ドルは上値の重い展開となりそうだ。来週は豪州から 19 日に 8 月雇用統計の発表が予定されているものの、豪ドル相場への反応は一時的なものにとどまるだろう。市場の注目を集める日米の金融政策公表が控えていることから、基本的にはドル円などの動向に振らされる展開となりそうだ。

来週は 17-18 日に米連邦公開市場委員会（FOMC）、19-20 日に日銀金融政策決定会合が開催される。米国は 0.25%の利下げ、日銀は金利据え置きがコンセンサスとなりつつあり、市場の注目は両中銀の金利見通しに集まりそうだ。日米金利差縮小への思惑が高まり、ドル円が下方向への圧力を強めれば、当然ながら豪ドル円も下値リスクが拡大する。今週の時点で 8 月 5 日にドル円・クロス円が急落した際の安値 90.15 円が視野に入っていることもあり、一層の注意が必要となるだろう。

また、豪準備銀行（RBA）の金融政策を巡って国内から非難の声が挙がっていることも懸念材料として意識しておきたい。チャーマーズ豪財務相は先週、「RBA の計 13 回に渡る利上げが豪経済を破壊している」と発言し、波紋を呼んだ。この発言は野党や保守派経済学者などから批判されたが、豪州で景気減速が進んでいることから、市場では豪財務相に同調する声も多い。一部の金融機関も「インフレが高止まりする中での景気鈍化は、RBA が利下げを行う理由にはならない」としながらも、利下げ予想時期を前倒ししており、23-24 日に予定されている次回の RBA 理事会に向けて思惑的な動きが進む可能性もありそうだ。

南アフリカ・ランド（ZAR）は下げ渋る可能性もある。来週は南アフリカから 18 日に 8 月消費者物価指数（CPI）や 7 月小売売上高などが発表され、19 日には南アフリカ準備銀行（SARB）が金融政策を公表する予定となっている。

SARB は今回の金融政策決定委員会（MPC）で現行の 8.25%から 8.00%へと政策金利を引き下げる見込みだが、その前日には米国で同規模の利下げが実施される公算が高く、対米金利差の縮小は避けられるだろう。また、SARB の利下げが同国の景気改善に寄与することから、ZAR にとってはポジティブな材料として受け止められそうだ。ZAR 円はドル円相場の影響を受けざるを得ないだろうが、対ドルでの ZAR 買いに支えられて、他のクロス円と比較すると相対的に底堅く推移することが予想される。

9 月 9 日週の回顧

豪ドルは対ドル・対円でともにやや方向感を欠いた動き。週半ばにかけては売りに押され、対円では一時 93 円台半ばまで下押す場面もあったが、その後は買い戻しが入った。ZAR も対円では一時 8 月 7 日以来の安値となる 7.8 円台まで値を下げたものの、売りが一巡するとは 8.00 円付近まで下値を切り上げた。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.